



ひとりの声を大切に！

高山豊彦(とよさん通信)

第19号



2023年(令和5年)夏号

発行責任者：高山豊彦 TEL/FAX：0774-78-2935

E-mail：toyohiko.takayama.3272@gmail.com

WEBサイト：https://www.komei.or.jp/km/takayama-toyohiko-wazuka/

この度、堀 忠雄町長が出張先で交通事故に遭い亡くなったとの報に触れ、あまりに突然のことで信じられず言葉を失いました。この22年間、財政再建や少子高齢化対策としての子育て支援の充実、茶産業を中心としたまちづくりなど多くの課題に取り組まれ、時に熱く語っておられた姿が目に残ります。また、住民の長年の悲願でもある(仮称)犬打峠トンネルの完成も目前となるこの時、ただただ残念でなりません。残された課題は山積する中、一議員として全力で役割を果たしていくことをお誓いし、ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

今号は、令和5年第2回定例会での一般質問等の内容をご報告させていただきます。

令和5年度補正予算

観光費に6530万円

マウンテンバイクランド活用促進事業委託料30万円、石寺景観前駐車場整備事業(工事施工監理業務委託料500万円、工事請負費6000万円)、優先枠2台、一般枠23台、マイクロバス2台分を整備、有事の際の避難スペースやコミュニティ広場としても活用。



活性化対策費に410万円

グラウンド及びテニスコートの照明用コインスイッチ更新など運動公園管理事業費250万円、「グリーンティ和束」2階のエアコンの更新等施設改修及び「和束の郷」前ライン引きなど活性化対策事業費160万円。



産業常任委員会(令和5年6月6日開催)



【総合保健福祉施設の概要説明】

施設の模型により、周辺の設備や内部各階の構造等、説明があった。

【生ごみ完熟堆肥事業の実地調査】

現在41軒の登録家庭で協力いただき、年間約10³m³の堆肥を生産、堆肥舎の拡大や担い手づくりなど体制強化が課題。

和束町議会 建設常任委員会 実地調査資料

一畑グループ人と環境共生センターが取り組む
『生ごみ完熟堆肥化事業』

令和5年6月6日
視察先：一畑岡山法人 和束15号



◆*◆*◆ 一般質問 ◆*◆*◆

第5次総合計画の前期基本計画では、5年間で取り組むべき主要な施策の展開の考え方が示されており、喫緊の課題である「(仮称)犬打峠トンネル開通を見据えたまちづくり」と、高齢者が安心して暮らすための、「高齢者のごみ処理支援の取り組み」について質問をしました。

(仮称)犬打峠トンネル完成を見据えたまちづくりを問う

1. トンネル開通により大型車両の増加も予想される、府道5号線の道路環境の整備を強く要望したい。

答. 広域での車の流通がよくなり、南部地域の経済の観点からも非常に重要。拡幅改良工事や法面の樹木の伐採など維持管理を含め、引き続き着実な整備を要望する。

2. トンネルから府道5号線までが沿道型サービスエリアとの計画があり、移住者の住宅の確保やまちづくりを進める上でも、早急な農業振興地域の再検討が必要。

答. 一定の規制を定め緩和措置を講じることも必要。計画的な地域指定の変更なども視野に入れ、将来像を描き取り組む課題であるが、整備計画に上がっている地域については、早急に見直す必要がある。

3. 空き家バンクの登録状況及び移住希望者の状況は。

答. 令和5年6月10日現在、これまでの空き家登録件数29件の内、誓約成立は21件、残り8件が登録空き家で、移住希望者の総登録数は101件、令和4年22件、令和5年8件となっている。

4. 国や府、民間の協力も得ながら、早急に移住希望者を受け入れられる体制づくりを。

答. 活性化センターに委託している空き家の相談やマッチングも更に充実させ、理解をいただく努力をするとともに、一般住宅についても町営や民間、PFI方式を含め本町に合った方向を検討していきたい。



高齢者ゴミ処理支援を問う

1. 木津川市等では「ふれあい収集制度」による支援があると聞いているが、本町での対応は。

答. 社会福祉協議会に、軽度生活援助サービス事業を委託し、ごみ収集受託業者がごみ収集時に高齢者の見守りを行っている。急速な高齢化への対応は喫緊の課題でもあり、現行の施策など検討を重ねなければならない。

2. 総務省の「高齢者等世帯に対するごみ出し支援」を活用し、古紙や粗大ごみを含め個別収集の検討を。

答. 古紙回収は団体等の運営費に充てている部分もあり、個々の団体との相談や、関係課と協議しながら検討・対応したい。



©KOMEITO